

# 活動報告書

報告者氏名:梅原篤 所属:東京都立墨東特別支援学校 記録日:2013年12月24日

## 【対象児(群)の情報】

・学年 高等部2年

・障害名 四肢体幹機能障害、知的障害

・障害と困難の内容

日常生活や経験に密着した簡単な会話はほぼ理解できる。発声はあるが、「あっ」「あーちゃん」などで内容の表現には至っていない。文字や記号の理解、指さした先を見る能力などから、文字等を意思表示の選択項目としては使えない。質問に対して「Yes」のときは発声や目を見開く、右手を動かすなどで表現できるが、いつも確実に伝えられる方法はなかった。また、本人の伝えたいことがある程度分からないと質問ができず、答えにたどり着くことが難しい。

スイッチと機械の因果関係はこれまでの学習で理解しているものの、意思を伝える手段として使う「動機付け」が課題であった。また特定の伝えたいことには意欲的であるが、あいさつに答えなかったり、親しくない人から話しかけられたときに返事をまったくしようとしないときがある。

車いすの姿勢が2時間程度までで、その他、側がいの姿勢で過ごすことも多い。また、呼吸に課題があり、痰の吸引も行っている。覚醒や体の緊張が安定せず、集中して学習できる時間が限られている。そのため、意思と伝える道具としては、①様々な姿勢で使える、②使いたいときにすぐに使える必要があった。

## 【活動目的】

・当初のねらい

- ①親や担任以外の学校の職員や将来の福祉施設内の職員に意思を分かりやすく伝えるようになること。
- ②気持ちを伝えたり、相手の質問に答える意欲を高める。
- ③設置場所を特定しない、設置の簡単なスイッチの利用。 (「にぎるスイッチ」「BluetoothのSwitch Interface」)
- ④正確で素早く操作でき、運動発達を考慮したスイッチの利用。 (「にぎるスイッチ」)。

・実施期間

平成25年5月13日から平成26年1月29日

・実施者

特別支援学校 高等部 学級担任・学習グループ担当

・実施者と対象児の関係

担任と生徒

## 【活動内容と対象児(群)の変化】

### ・対象児(群)の事前の状況

意思表示は、「あっ」という発声や「目」を見開くなどで伝えようとして、コミュニケーション・ボードからの選択では伝えようとしなかった。

### ・活動の具体的内容

Bluetooth の Switch Interface、にぎるスイッチ、iPhone、SoundingBoard(アプリ)を利用(図1)。SoundingBoard は、Audio Scan、Single Switch Mode (Auto Scan) で行った。iPhone より、「トイレが行きたいですか?」などの質問が再生されていき、自分の伝えたいことと一致すれば、右手を握ることでスイッチが押され、「トイレに行きたい。」などと再生される。大項目、小項目のボードを用意し、関連するボードはリンクで行き来できるようにした。例えば、大項目で「あいさつ」を、小項目で「おはよう」を選択する。1つのボードには選択肢が9程度である。

①小型の iPhone を用いること、②音を中心とした項目の提示にすること、③Bluetooth にすることによって、どのような姿勢(図2、図3)でも同じ方法で、また短時間でコミュニケーションができるようになった。また、④にぎるスイッチの操作は、手の粗大運動を利用したスイッチ操作よりも、正確に、素早く操作することができた。

### ・対象児(群)の事後の変化

選択された項目が音声でフィードバックされるため、友達や関わりの少ない教員等にも意志が伝わり、気持ちを通じ、コミュニケーションの対象が飛躍的に拡大した。

設置時間の短縮、設置場所を選ばないということから、コミュニケーションの機会が増えた。本人が伝えたいことがある場面でコミュニケーション・ボードが使える、結果的に伝える意欲が高まった。音楽選択が中心だった自主的な選択が、意思表示の手段として使えるようになった。また指の分化した運動が見られるようになってきた。進路実習先でも、同じ機器を使って挨拶や自己紹介をすることができた。



図1:使用機器



図2:車いす座位で使用



図3:側がいで使用

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき

機械を使わずに支援者が質問をしていく方法では質問者の意図が大きく反映されてしまうことに気がついた。今回、本人が選択した項目は、「体調」の項目から「元気です」や「友達」の項目から欠席してその場にいない生徒の名前であった。「あいさつ」を間違えて使っていたこともあったが、今まで発声や表情を教員が解釈するという方法では分からなかった。同じ言葉を繰り返すなど、言葉で遊ぶ場面も見られた。

### ・エビデンス(具体的数値など)

これまで、選択課題では動画や音楽などが中心であったが、意思表示の手段として iPhone や iPad を使うようになった。給食時に友達に話しかけたり、医療的ケアをする看護師にあいさつや簡単な会話をするようになった。担任や保護者を介さずコミュニケーションが成立するようになった。

### ・その他エピソード(画像などを含めて)

今後の展望としては、会話に使う機器は、ウェアラブル(コンピュータ)が理想ではないかと考える。特別な場所で時間をかけて準備するのでは、会話の道具としては十分ではない。またコミュニケーション・ボードの項目は常に更新する必要がある、学習機能を組み込んだものが登場することを期待したい。